

of excellent treatment which did not correspond to Japanese
propaganda, that had pointed out that they should be maltreated
if they were imprisoned.

外
務
省

藤倉

152

4 23



居祕合第三九八號

昭和十九年六月三日

俘虜情報局長官 殿

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公使

別紙添附

省外印務



本件ニ關シ本邦ニ於ケル敵國利益保護國代表ヨリ從來屢々申出ノ
 次第アリタルコトハ既ニ御承知ノ通ナル處今般在京瑞西國公使ヨ
 リ外務大臣宛公文ヲ以テ米國ニ於ケル訪問取扱振ニ關スル米政府
 ノ説明ヲ申越スト共ニ改メテ我方ノ訪問許可別紙假譯文ノ趣旨ニ
 テ要請シ來レルニ付テハ右茲ニ送付ス御査閱相成度

帝國權内ノ俘虜及抑留者收容所視察方ニ
 關スル件
 右の如き点強ス

軍務課
 意見
 米國內收容所等、視察ト我南方地域内、收容所
 等、視察トハ之が許否決定上同一ニ論ズルハ當ラス
 特ニ暗號電報ヲ送スル瑞西代表ニ占領地ニ於ケル
 視察ヲ許スルハ過早ニシテ危險アリ(マニヤル)
 視察要否ヲ決スルニ我宜ナル取扱ヲ知ラシムルヲ大槓
 ヲ先ツマシラシムルニ及ビヤカトシニ於ル軍抑留所
 (非關魚)ニ限リ、赤十字代表(現地ニ臨時駐日
 代表代理者ヲ任命)ニ視察セシムル可ナル意見

意見

軍務課

山

米國內收容所等、視察ト我南方地域内、收容所
 等、視察トハ之が許否決定上同一ニ論ズルハ當ラス
 特ニ暗號電報ヲ送スル瑞西代表ニ占領地ニ於ケル
 視察ヲ許スルハ過早ニシテ危險アリ(マニヤル)
 視察要否ヲ決スルニ我宜ナル取扱ヲ知ラシムルヲ大槓
 ヲ先ツマシラシムルニ及ビヤカトシニ於ル軍抑留所
 (非關魚)ニ限リ、赤十字代表(現地ニ臨時駐日
 代表代理者ヲ任命)ニ視察セシムル可ナル意見

外務大臣宛在京瑞西國公使發書翰（昭一九、五、一〇附）
CC一、一 EGR 假譯文

以書翰啓上致候陳者極東ニ於ケル俘虜收容所及非戰鬥員抑留所訪問
方ニ關シ從來ノ拙信ヲ以テ申進有之候處米國政府ハ今般米本土及布
哇ニ在ル日本人俘虜收容所及抑留所ノ訪問取扱振ニ關スル左記情報
ヲ提供シ來レル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

一米本土及布哇ニ於ケル日本國ノ利益保護ヲ夫々引受ケ居ル西班牙
國大使館及瑞典國公使館ノ各代表者ハ日本人カ俘虜、集團生活者、
抑留者又ハ監禁者トシテ收容セラレ居ル總テノ場所ヲ過去二年間ニ
例外ナク屢次訪問シ、立會人無ク自由ニ彼等ト面會スルコトヲ許容
セラレ且諸收容場所ノ總テノ要點觀察上最大ノ自由ヲ許サレタリ
西班牙ノ代表者ハ「ツールレーク」集團生活所ヲ五回「ユター」中央
集團生活所ヲ四回訪問シ且他ノ八ヶ所ノ集團生活所ヘ夫々三回ノ訪

問ヲ爲シタリ

司法省管下ノ「フォート、ミゾラ」及「ケネディ」抑留所ハ五回「サントフェ」抑留所ハ四回訪問セラレ且「シーゴヴィル」ニ於テハ日本人カ他へ移送セララル迄ニ同様四回訪問セラレタリ
 一九四三年三月「クリスタル、シテイ」日本人抑留所開始以來二回ノ訪問行ハレ、客年五月開所セラレタル「クリースキア」モ同様ナリ
 「ツナ、キヤニヨン」及「フォートリンコルン」ニ於テハ日本人カ他へ移轉セル以前ニ夫々少クトモ三回及二回訪問セララル
 「シアトル」、「シカゴ」、「サンベドロ」、「デンヴァー」、「グリフィス、パーク」、「フォート、ハワード」、「ソート、レイク、シテイ」其ノ他ノ都邑ト監禁所ニ日本人ノ收容サレ居リタル期間ニ於テ之等ハ西班牙國大使館代表者ニ依リ屢々訪問セラレタリ
 桑港及紐育ノ各西班牙國領事ハ夫々桑港ノ「シャープ、パーク」及紐育ノ「エリス、アイランド」監禁所所長ニ願出テ自由ニ之ヲ訪問

スルコトヲ得

西班牙國代表者ハ陸軍省ニ依リ拘禁セラレ居リタル日本人ヲ「フォ
ート、シル」ニ一回、「リヴィングストン」、「ローツバーク」、
「フォート、サム、フューストン」、「フォート、ルウイス」ニ各
二回及「フォート、ジョージ、ミード」ニ四回訪問セリ。

「マツコイ」收容所ニ在ル日本人俘虜ハ西班牙國代表者ニ依リ一回
訪問セラレタルカ之等俘虜ノ多數ハ既ニ他ノ收容所ニ於テ其ノ訪問
ヲ受ケタリ

布哇ニ於テ監禁セラレ居ル日本人ハ最近在華府瑞典國公使館ノ代表
者ニ依リ訪問セラレタルカ右日本人ハ既ニ數回ニ亙リ在「ホノルル」
瑞典國領事ノ訪問ヲ受ケタリ

尙國務省ハ在華府西班牙國大使館ヨリ日本臣民ノ抑留サレ居ル總テ
ノ合衆國內ノ場所ヲ即時訪問方ノ要請ヲ受ケタル旨通報越シ候米國

孩局南方
モ例外ナリ全
部見セサル
間抗議的
申入ヤマハル
ヘシ

157

政府ハ本件ニ關スル相互主義ヲ確保スル爲日本政府カ瑞西國代表者
ニ對シ米國市民在リテ未タ訪問セラレサル總テノ場所ニ赴クコトヲ
許ス爲採ラレタル措置ヲ承知シ度ク希望致居候

合衆國政府ハ特ニ緬甸、泰、マライ、舊蘭領印度及比島ニ於ケル收
容所ノ訪問ヲ欲スルモノニ有之候處之等ノ中或モノハ既ニ二年有餘
以前ニ設置セラレタルモ其ノ後全ク訪問セラレサル次第ニ候合衆國
政府ハ米國ニ就キ西班牙國及瑞典國代表者ノ得居ル如ク、瑞西國代
表者ニ於テ今後俘虜ノ待遇ニ關スル一九二九年七月二十七日ノ壽府
條約ニ規定ノ便宜ヲ與ヘラレンコトヲ切望致候

就テハ極東ニ於ケル未訪問ノ收容所特ニ上記ノ地域ニ於ケルモノノ
訪問ニ關スル帝國政府ノ意嚮御通報相成度御回答ニ付豫メ謝意申述
候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十九年五月十日

瑞西國公使「カミュー・ユルジェ」

外務大臣 重光

参閣下

L

外務省

外務大臣宛在京瑞西國公使發書翰（昭一九、五、一〇附）
CC 一、一 EGR 假譯文

以書翰啓上致候陳者極東ニ於ケル俘虜收容所及非戰鬥員抑留所訪問
方ニ關シ從來ノ拙信ヲ以テ申進有之候處米國政府ハ今般米本土及布
哇ニ在ル日本人俘虜收容所及抑留所ノ訪問取扱振ニ關スル左記情報
ヲ提供シ來レル旨閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候

一 米本土及布哇ニ於ケル日本國ノ利益保護ヲ夫々引受ケ居ル西班牙
國大使館及瑞典國公使館ノ各代表者ハ日本人カ俘虜、集團生活者、
抑留者又ハ監禁者トシテ收容セラレ居ル總テノ場所ヲ過去二年間ニ
例ハナク屢次訪問シ、立會人無ク自由ニ彼等ト面會スルコトヲ許容
セラレ且諸收容場所ノ總テノ要點視察上最大ノ自由ヲ許サレタリ
西班牙ノ代表者ハ「ツールレーク」集團生活所ヲ五同「ユタ」中央
集團生活所ヲ四回訪問シ且他ノ八ヶ所ノ集團生活所ヘ夫々三回ノ訪

問ヲ爲シタリ

司法省管下ノ「フォート、ミソラ」及「ケネディ」抑留所ハ五回「サンタフェ」抑留所ハ四回訪問セラレ且「シーゴイヴィル」ニ於テハ日本人カ他へ移送セララル迄ニ同様四回訪問セラレタリ

一九四三年三月「クリスタル、シテイ」日本人抑留所開始以來二回ノ訪問行ハレ、客年五月開所セラレタル「タースキア」モ同様ナリ「ツナ、キヤニヨン」及「フォートリンコン」ニ於テハ日本人カ他へ移轉セル以前ニ夫々少クトモ三回及二回訪問セララル

「シアトル」、「シカゴ」、「サンベドロ」、「デンヴァー」、「クリフィス」、「パーク」、「フォート、ハワード」、「ソート、レイク、シテイ」其ノ他ノ都邑ト監禁所ニ日本人ノ收容サレ居リタル期間ニ於テ之等ハ西班牙國大使館代表者ニ依リ屢々訪問セラレタリ
 桑港及紐育ノ各西班牙國領事ハ夫々桑港ノ「シャープ、パーク」及紐育ノ「エリス、アイランド」監禁所所長ニ願出テ自由ニ之ヲ訪問

スルコトヲ得

西班牙國代表者ハ陸軍省ニ依リ拘禁セラレ居リタル日本人ヲ「フォ
ート、シル」ニ一回、「リヴィングストン」、「ローツバーク」、
「フォート、サム、フニストン」、「フォート、ルウイス」ニ各
二回及「フォート、ジョージ、ミード」ニ四回訪問セリ。

「マツコイ」收容所ニ在ル日本人俘虜ハ西班牙國代表者ニ依リ一回
訪問セラレタルカ之等俘虜ノ多數ハ既ニ他ノ收容所ニ於テ其ノ訪問
ヲ受ケタリ

布哇ニ於テ監視セラレ居ル日本人ハ最近在華府瑞典國公使館ノ代表
者ニ依リ訪問セラレタルカ右日本人ハ既ニ數回ニ亘リ在「ホノルル」
瑞典國領事ノ訪問ヲ受ケタリ

尙國務省ハ在華府西班牙國大使館ヨリ日本臣民ノ抑留サレ居ル總テ
ノ合衆國內ノ場所ヲ即時訪問方ノ要請ヲ受ケタル旨通報越シ候米國

政府ハ本件ニ關スル相互主義ヲ確保スル爲日本政府カ瑞西國代表者ニ對シ米國市民在リテ未タ訪問セラレサル總テノ場所ニ赴クコトヲ許ス爲採ラレタル措置ヲ承知シ度ク希望致居候

合衆國政府ハ特ニ緬甸、^泰マ、^マファイル、舊蘭領印度及比島ニ於ケル收容所ノ訪問ヲ欲スルモノニ有之候處之等ノ中或モノハ既ニ二年有餘以前ニ設置セラレタルモ其ノ後全ク訪問セラレサル次第ニ候合衆國政府ハ米國ニ就キ西班牙國及瑞典國代表者ノ得居ル如ク、瑞西國代表者ニ於テ今後俘虜ノ待遇ニ關スル一九二九年七月二十七日ノ壽府條約ニ規定ノ便宜ヲ與ヘラレンコトヲ切望致候

就テハ極東ニ於ケル未訪問ノ收容所特ニ上記ノ地域ニ於ケルモノノ訪問ニ關スル帝國政府ノ意嚮御通報相成度御回答ニ付豫メ謝意申述候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

昭和十九年五月十日

6

外務大臣 重光

参閣下

瑞西國公使「カミリーユ・ゴルジュ」

外務省

官 藤倉	務 高田	事 保田	部 菅井	長 5年	保存期限
27 164				行指定	決裁指定

控

大臣 委	大臣 委	大臣 委	大臣 委	大臣 委	大臣 委
主務局長 濱田	次官 菅井	高級副官 菅井	主務課長 小田島	主務副官 官房御用掛 中吉	主務課員 保田
參與官			書記官		
審判者			審案		
房官臣大	課局務主	件名			受番
了結 昭 和 年 月 日	領受 昭 和 年 月 日	俘虜收容所視察ニ關スル件			號領 陸軍省 受領省 陸亞普受第三五二三號
(裁決)行決 覽回後	帶連	俘虜收容所視察ニ關スル件			陸軍
長局	長局	俘虜收容所視察ニ關スル件			陸軍
長課	長課	俘虜收容所視察ニ關スル件			陸軍

陸軍

政務次官 回付 決裁前連帶
參與官 決裁後課名
決行(決裁)後
回覽課名

陸亞普

次官ヨリ外務次官へ通牒案

左ノ通俘虜收容所ノ視察ヲ許可セラレタルニ付可然御取計相成度

視 察 者	視 察 許 可 場 所	期 日
瑞西國公使館員「ベルナート」 (米國、英國ノ利益代表トシテ)	東京俘虜收容所(第二分所及第五派遣所)	七月上旬
瑞典國公使館員「ガベル」 (和蘭國ノ利益代表トシテ)	福岡俘虜收容所(第一分所及第十二派遣所) 善通寺俘虜收容所(本所)	七月上旬、中旬
羅馬法王廳使節代表「ポール・マレラ」	福岡俘虜收容所(第八派遣所及第十派遣所)	
追テ視察實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ノ指示ヲ受ケシメラレ度		

陸亞普第八六二號

昭和拾九年六月廿貳日

陸軍

陸亞普

大臣ヨリ赤十字國際委員會駐日代表へ指令案

「アングスト」ニ對シ七月上旬大阪俘虜收容所（第十一分所）ノ

視察ヲ許可ス

視察實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ノ指示ヲ受クルモノトス

陸亞普第八六二號 昭和拾九年六月廿貳日

陸亞普

副官ヨリ

東部軍 中部軍 西部軍

參謀長へ通牒案

（東部軍）

七月上旬瑞西國公使館員「ペルナート」ニ對シ米國、英國ノ利益

代表トシテ東京俘虜收容所（第二分所及第五派遣所）ノ視察ヲ許

可セラレタルニ付可然取計相成度依命通牒ス

追テ視察實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメラ

ル

陸亞普第八六二號

昭和拾九年六月廿貳日

(中部軍)

七月上旬赤十字國際委員會駐日代表「アングスト」ニ對シ大阪俘虜收容所(第十一分所)ノ視察ヲ、七月上旬、中旬瑞典國公使館員「ガベル」ニ對シ和蘭國ノ利益代表トシテ善通寺俘虜收容所(本所)ノ視察ヲ夫々許可セラレタルニ付可然取計相成度依命通牒ス

追テ視察實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメラ
ル

陸亞普第八六二號

昭和拾九年六月貳拾貳日

(西部軍)

七月上旬、中旬瑞典國公使館員「ガベル」ニ對シ和蘭國ノ利益代表トシテ福岡俘虜收容所(第一分所及第十一派遣所)ノ視察ヲ、羅馬法王廳使節代表「ポール・マレラ」ニ對シ福岡俘虜收容所(第八派遣所及第十一派遣所)ノ視察ヲ夫々許可セラレタルニ付可然取計

相成度依命通牒ス

追テ視察實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメラ
ル

陸亞普第八六二號

昭和拾九年六月廿貳日

大野
新野

陸軍

166

居普通第三四〇號

昭和十九年五月十二日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公

俘虜情報局長官 殿

瑞西トノ關係モ願慮ニ至ル

許可スル

可トモレ

在京瑞典國公使館員ニ對シ福岡及善通寺俘虜收容所訪問許可方ノ件

今般在京瑞典國公使館ヨリ別添甲號竝ニ乙號ノ通同公使館外交官補「ガベル」ニ對シ福岡及善通寺俘虜收容所ノ訪問許可方申出アリタルニ付委細右ニテ御了知ノ上本件回答振ニ關シ何分ノ儀御回示相成度

別紙添附

外務省 印

情報受領
19.5.13 和
第 2 號

外務省

41

甲
號

一九四四年五月二日附在京瑞典國公使館第B-63/44號
口上書假譯文

瑞典國公使館ハ和蘭國利益代表トシテ帝國外務省ニ對シ公使館外交
官補「イー、ビー、ガベル」カ五月後半ニ於テ福岡俘虜收容所ヲ訪
問シ得ル様關係官憲ト交渉方要請スルノ光榮ヲ有ス
客年六月「ガベル」ハ前記收容所訪問ノ際和蘭人合計六百六十四名
カ收容セラレ居ル分所ニケ所ヲ訪問スル機會ヲ與ヘラレタルカ俘虜
情報局ヨリ得タル情報ニ依レハ福岡俘虜收容所ニ於ケル和蘭人俘虜
現在數ハ千八百八十六名以上ナル趣ニ付今回ハ「ガベル」ニ對シ客
年訪問セル前記分所ノ再訪問ノ外和蘭人俘虜ノ收容セラレ居ル凡テ
ノ分所訪問許可方希望ス

乙
號

一九四四年五月二日附在京瑞典國公使館第B-34/44號
口上書假譯文

瑞典國公使館ハ和蘭國利益代表トシテ帝國外務省ニ對シ公使館外交
官補「イー、ビー、ガベル」カ五月後半ニ於テ善通寺俘虜收容所訪
問ヲ關係官憲ヨリ許可アル様取計方要請スルノ光榮ヲ有ス
公使館ハ右ノ訪問ニ於テ「ガベル」カ和蘭人俘虜代表ト會談ノ機會
ヲ與ヘラレムコトヲ要請シ度シ
善通寺俘虜收容所訪問ハ本日附公使館第B-35/44號口上書ヲ以テ申出
タル福岡俘虜收容所ノ訪問ト關聯シ決定セララル様希望ス

務
省

169

居普通第三九〇號

昭和十九年六月一日

俘虜情報局長官 殿

外務省在敵國居留民關係事務室
鈴 木 公 使



在京瑞西國公使館員ニ對シ東京俘虜收容所
訪問許可方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ同公使館二等書記官「ベルナット」ニ
對シ東京俘虜收容所訪問許可方依頼越シタルニ付可然御取計相成
度

Vertical handwritten text, possibly a signature or official note, including the characters '藤倉' (Fujiura).

外務省



170



俘普第一七一號

昭和十九年七月三日

日本赤十字社俘虜救恤委員部長 公爵 島津忠承

俘虜情報局長官 濱田 平 殿

赤十字國際委員會駐日代表ノ愛知縣下
俘虜收容所視察ニ關スル件

拜啓 赤十字國際委員會駐日代表ハインリツヒ・アングスト氏
(M. H. C. Arrest) 愛知縣下所在俘虜收容所視察ノ爲七月四日出發別
紙日程ニ依リ旅行致スヘク候ニ付便宜供與方可然御配慮ニ預度此
段及御依頼候也

尚本社ヨリハ渥美外事課長同道致ス筈ニ付御含被下度

敬具

日本赤十字社





赤十字國際委員會駐日代表ノ愛知縣下所在
俘虜收容所並抑留所視察日程

七月四日(火)

一〇、〇九 上野發

一五、〇三 輕井澤着

七月五日(水)

八、二八 同發

一〇、一一 篠井着

一一、二一 同發

一八、四七 名古屋着

七月六日(木)

收容所視察

七月八日(土)

一三、五七 名古屋發

二〇、五一 東京歸着

171

+

俘普第一七一號

昭和十九年六月 日

日本赤十字社俘虜救恤委員部長 公爵 島津 忠 承

俘虜情報局長官 濱 田 平 殿

赤十字國際委員會駐日代表ノ愛知縣下
俘虜收容所視察ニ關スル件

拜啓 赤十字國際委員會駐日代表ハインリツヒ・アングスト氏
(M. H. O. ANGST) 愛知縣下所在俘虜收容所視察ノ爲七月四日出發
別紙日程ニ依リ旅行致スヘク候ニ付便宜供與方可然御配慮ニ預度
此段及御依頼候也

敬 具

尙本社ヨリハ渥美外事課長同道致ス等ニ付御舎被下度

日本赤十字社



赤十字國際委員會旅日代表ノ愛知縣下所存
件屬收容所並抑留所視察日程

七月四日(火)

一〇、〇九 上野發

一五、〇三 輕井澤着

七月五日(水)

八、二八 同發

一〇、一一 飯井着

一一、二一 同發

一八、四七 名古屋着

七月六日(木)

收容所視察

七月八日(土)

一三、五七 名古屋發

二〇、五一 東京着

電


173

田中久正

決行指定

決裁指定

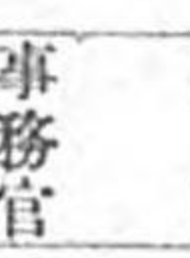
保存期限

件名	發翰者	年月日	案起		官長	發翰記號番號		
			年月日	年月日			名部	
俘虜收容所視察1件	大改俘虜收容所 第十一分所 所長	昭和十九年七月四日	昭和十九年七月四日	俘虜情報局				
		決行後	帶	連			高級事務官	高級事務官
		局長		局				庶務係事務官
		發翰者		課				發翰取扱者
	局長			課		主務取扱者		
	局長			課				
	局長			課				
	局長			課				

連帶局課名

決行後
回覽局課名

俘虜情報局



五十字代表一五日十八時四十分
名古屋着

六日視察

八日出発

針

官	務	事	長
		部長	五年
174	菅井	決行指定	決裁指定

控

政務次官 回付 決裁前連帶
參與官 決裁後課名

受領番號
陸軍省 陸亞普受第三七四二號

起元應(課)名
俘虜管理部

決行(決裁)後
回覽課名

陸軍

件名
俘虜收容所視察場所變更ニ関スル件

大臣 委	局長 濱田	次官 委	政務次官	參與官	書記官	審案 筆記者
	主務局長	高級副官 菅井				
	主務課長 十田島	主務副官 中吉				
	主務課員 十田島	主務副官 中吉				
						田中

大房官	主務局長	受領番號
了結	提出	受領
昭和 年 月 日	昭和十九年 七月 廿四日	昭和 年 月 日
(決裁)行決 覽回後	帶連	
局長	局長	
長課	長課 軍務代 防衛 上田 山崎	

陸亞普

次官ヨリ外務次官へ通牒案

六月二十二日附陸亞普第八六二號ニ依ル瑞典國公使館員「ガベル」ニ對シ視察許可場所福岡俘虜收容所第一分所及第十一派遣所トアルヲ第十派遣所及第十一派遣所ニ変更セラレタルニ付可然御取計相成度

陸亞普第九二六號

昭和拾九年七月四日

陸亞普

副官ヨリ西部軍參謀長へ通牒案

六月二十二日附陸亞普第八六二號ニ依ル瑞典國公使館員「ガベル」ニ對シ視察許可場所福岡俘虜收容所第一分所及第十一派遣所トアルヲ第十派遣所及第十一派遣所ニ変更セラレタルニ付可然取計相成度依命通牒ス

陸亞普第九二六號

昭和拾九年七月四日

(平)

參多兵學州功法	醫衛法	憲改武之經	交際戰整	歌馬防共兵	報軍軍軍	恩補人	祭書文副次大
摩政	車生務	禁煙查并理	通料備備	區政衛備務務	道務事務	賞任筆	茶
本研本清本訓而	謀謀	探探製製局	策策課	機機課課局	部課課局	課課局	料類書官官臣

175-

修廣情報局

秘

電

報

六二九

昭和一九二九

一一一
六四三一
五五三五
五五五五
點受著發

宛 副官

西 部 軍 參 謀 長

西軍參電第五二七號

陸亞普第八六二號瑞蘭公使「ガベル」福岡俘虜收容所第一分所視察
 八防諜上第十派道所ニ變更セラレ度

(終)

KWU June 13 00:00

-7-

(494)

Sabotage is wide-spread. Railroads and roads are being torn up. Reliable reports reaching Madrid says that all communication between Bordeaux and Paris has been interrupted. The confusion of the seriously damaged roads is worse than during the time France fell.

PACIFIC: AMERICAN TASK FORCE INVADES MARIANNAS

On the other side of the world, our war against the Japanese continues without letup these days. In the latest blow, an American naval task force carried out another raid on the enemy's Mariana Islands. All types of combat vessels, including battleships, are believed to have made up the task force.

Saipan, Tinian and Guam are the principle islands of the Mariannas group, but details of this new attack are not yet available, because radio silence still must be maintained by the fleet. Admiral Nimitz, however, does say that it was a powerful assault.

The Japanese Island of Palau was hit again. This time by land based Liberator bombers. The Japs were caught completely by surprise and had 22 of their planes destroyed on the ground.

CHINA: SITUATION GRAVE SAYS CHENNAULT

On the Asiatic mainland, the Japanese are reported to have opened a new drive along the railroad between Canton and Changsha. This new push is headed northward to match the enemies drive in the Changsha area.

General Chennault, the commander of our 14th air Force says that the new Japanese drive is serious. He emphasized that the fighting in that area is the gravest since 1938. He adds, that the Pacific war can be prolonged for years if the Japs are able to take the railroad and build defensive positions along it.

And that's the top news from the Pacific.

KWU 7

etn/k



拜啓陳者、今朝電話にて連絡申上候
 在京法王廳使節及瑞典國公使代理、
 係此機収為所訪向及旅社表申表迄、
 以送任申上可備申一覽被下度他。敬具。

昭和十九年七月十日

外務省 常岡忠亨 尊



浮屠情報局

保田中佐 殿

陸軍 收容所 連絡 係



外務省

在京法王應使節ノ在九州俘虜收容所訪問假旅程

七月二十四日 東京發一 大阪着泊

同 二十五日 大阪發一 福岡着泊

同 二十六日 博多滞在

同 二十七日 福岡縣嘉穂郡稻築町大字鴨生五五第十一派遣所訪問

博多泊

同 二十八日 福岡縣田川郡南添田町第八派遣所訪問後下關ニテ

三陽ホテル泊

同 二十九日 下關發一 大阪着泊

同 三十日 大阪發一 東京着

外務省

在京瑞典國公使代理ノ俘虜收容所訪問假旅程

七月二十五日 善通寺俘虜收容所訪問（本所）訪問

同 二十六日 福岡行 泊

同 二十七日 第十一派遣所（福岡縣嘉穂郡稻築町）訪問

同 二十八日 第十派遣所（福岡縣嘉穂郡二瀬町）訪問

外務省

官	務	事				長官

控

32

L79

俘外第二一號

在西貢瑞西國領事ノ俘虜收容所訪問ノ件

昭和十九年七月二十九日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

居普通第四八八號ニ依ル首題ノ件ニ關スル當方ノ意見左ノ通回答ス
 佛印ニ於ケル瑞西領事ノ俘虜收容所訪問ハ帝國軍ニ對スル敵國利益
 代表ノ行動トシテ原則トシテ未タ認メラレラス

俘虜情報局

180

保存期限
決裁指定
決行指定

件名	受輸者	發輸年月日	案起		官長	發輸記號番號	
			年月日	名部			
在西安陽西王領子一信書收突所同件	欽差公使	昭和十九年七月二十九日	昭和十九年七月二十九日	俘虜情報局	濱田	俘外第二十一号	
			決行後	連		高級	高級
	發輸者	長	長	課	事務官	庶務係	發輸
			軍務	保田	主務	取投者	

連帶
局課名

決行後
回覽局課名

俘虜情報局

在昔通中曰八八号二依儿号题一件之图元高方一毫

見地一通四家公之

佛印之北之臨而認之

在西貢臨西國領事，即發支印地亞事團事

敵五 一係廣收宗以訪向二帝因

君老利益代表 行勅 認十甲三之 徒才

軍之對入心 一行政助計之為到卜之 林

用通事一係廣收宗所討向主謹議之難之

事務		事務		長官	
		美	保	西	9

181

居普通第四八八號

昭和十九年七月二十六日

在敵國居留民關係事務室

特命全權公使 鈴木

木九萬

俘虜情報局長官 殿

在西貢瑞西國領事ニ對シ西貢俘虜收容所訪問許可方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ別添假譯文ノ通在西貢瑞西國領事ニ對シ同地俘虜收容所訪問許可方申越シタルニ付茲ニ移牒ス委細右ニテ御了知ノ上何分ノ儀御回示相成度

佛仰ニ於テ此初登代表ノ認テ了ス
 訪内ヲ許可セザルニ付
 本館ニ在ルニ付

別紙添附



外務省

一九四四年七月十七日附在京瑞西國公使館口上書假譯文
瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ西貢駐在瑞西國領事ガ在佛印日
本陸軍當局ニ對シ米國及英國俘虜收容所訪問許可方要請セル旨通
知スルノ光榮ヲ有ス。
前記當局ハ瑞西國領事ニ對シ許可ヲ與フベキ權限ナク唯陸軍省ノ
ミ其ノ權限アル旨回答セリ。
前記ノ旨通知セラレタル英國政府ハ瑞西國政府ニ對シ西貢駐在瑞
西國領事ガ出來得ル限り速ニ佛印俘虜收容所訪問許可サルル様日
本國政府ニ斡旋方要請セリ。
瑞西國公使館ハ帝國政府ニ對シ本件決定ヲ通告セララル様要請旁
茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス。

陸亞普

次官ヨリ外務次官へ通牒案

左ノ通俘虜收容所ノ訪問ヲ許可セラレタルニ付可然御取計相成度

訪 問 者	訪 問 許 可 場 所	期 日
瑞西國公使館員「マルナート」	函館俘虜收容所（本所、第一分所及第一派遣所）	八月中下旬
（米國、英國ノ利益代表トシテ）	東京俘虜收容所（第六派遣所及第九派遣所）	八月中旬
瑞典國公使館員「ガベル」	東京俘虜收容所（第一派遣所及第五派遣所）	八月中旬
（和蘭國ノ利益代表トシテ）	羅馬法王廳使節代表	八月中旬
「ポール・マレラ」	追テ訪問實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ノ指示ヲ受ケシメ	ラレ度

陸軍

陸軍普

陸軍普第一〇五六號 昭和拾九年八月拾日

大臣ヨリ赤十字國際委員會駐日代表へ指令案

「アングスト」ニ對シ八月中旬大阪俘虜收容所附屬病室ノ訪問ヲ許可ス

訪問實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ノ指示ヲ受クルモノトス

陸軍普第一〇五六號 昭和拾九年八月拾日

陸軍普

副官ヨリ

北軍 東軍 中軍

參謀長へ通牒案

(北部軍)

八月中、下旬瑞西國公使館員「ベルナート」ニ對シ米國、英國ノ利益代表トシテ函館俘虜收容所(本所、第一分所及第一派遣所)ノ訪問ヲ許可セラレタルニ付可然取計相成度依命通牒ス
追ツテ訪問實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメ

ラル

(東部軍)

陸軍普第一〇五六號 昭和拾九年八月拾日

八月中旬瑞典國公使館員「ガベル」ニ對シ和蘭國ノ利益代表トシテ東京俘虜收容所(第六派遣所及第九派遣所)ノ訪問ヲ羅馬法王廳使節代表「ポール・マレラ」ニ對シ東京俘虜收容所(第一派遣所及第五派遣所)ノ訪問ヲ夫許可セラレタルニ付可然取計相成度依命通牒ス

追ツテ訪問實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメラル

陸軍普第一〇五六號 昭和拾九年八月拾日

(中部軍)

八月中旬赤十字國際委員會駐日代表「アングスト」ニ對シ大阪俘虜收容所附屬病室ノ訪問ヲ許可セラレタルニ付可然取計相成度依

命通牒ス

追ツテ訪問實施ノ細部ニ關シテハ俘虜管理部長ヨリ指示セシメ
ラル

陸軍

陸軍普第一〇五六號 昭和拾九年八月拾日

大塚

勅野

俘管

保田

陸軍省 領 壹第 二八九五號

居普通第四四五號

昭和十九年七月四日



上管井

陸軍 次官 殿

外務 次官



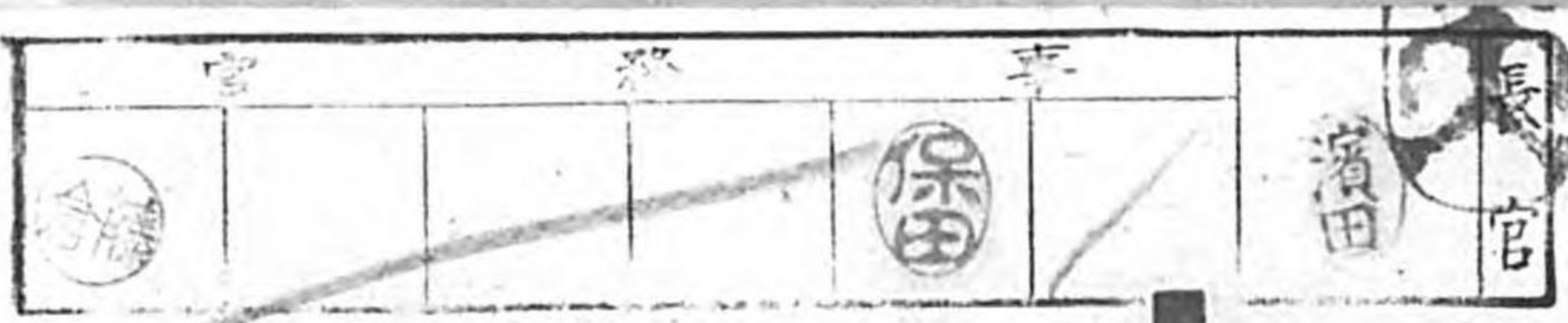
俘虜情報局

在京瑞西國公使館ニ對シ函館俘虜收容所
訪問許可方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ英國政府及米國政府ノ利益代表者
代理トシテ同公使館ニ等書記官「バルナット」ニ對シ函館俘虜收容所
訪問許可方依頼越シタルニ付右可然御取計相成度



保田



187

俘普通第二一八號

昭和十九年八月二日

日本赤十字社俘虜救恤委員部委員長 公傳 島津忠 承

俘虜情報局長官 濱田 平 殿

赤十字國際委員會駐日代表ノ神戸俘虜病院視察ニ關スル件

拜啓 赤十字國際委員會駐日代表部ヨリ七月二十九日附第二三四號書翰ヲ以テ同代表部ヨリ七月二十七日附第四五四號書翰ヲ以テ貴局宛申請セル神戸所在俘虜病院ノ視察許可ニ付本社ノ執成ヲ依頼越候就テハ委細別紙書翰寫ニテ御了承ノ上御差支無之限右御許可相成度御依頼申進候也

敬 具

追テ同代表今回ノ關西出張ニ際シテハ八月十五日兵庫縣抑留所ヲ視察致スコトニ相成居リ候ニ付右病院視察ハ成ルベク夫レ以前ニ實施得ル様御取計被下候ハバ幸甚ニ候

八月十七日 島津忠 承

日本赤十字社



假
譯



188

一九四四年七月二十九日

第二三四號

赤十字國際委員會駐日代表部

社
宛

神戸所在俘虜病院視察許可申請ニ關スル件

本代表部アングスト代表ガ俘虜情報局ニ對シ申請セル最近神戸ニ設
ケラレタル俘虜病院視察許可願第四五四號ノ寫同封及御送附候也
本件ニ關シ關係當局ニ對シ貴社ヨリ可然御執成被下候ハバ感謝ニ不
勝候

日本赤十字社

COPY

189

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE
GENEVA (SWITZERLAND)
DELEGATION FOR JAPAN

HCA:ES

G.T. 1285

REF. No. 234

NOTE TO JAPAN RED CROSS SOCIETY

PERMISSION TO VISIT POW HOSPITAL IN KOBE:

The Japan Delegation of the I.R.C.C. presents its compliments to the Japan Red Cross Society and has the honour to append carbon copy of Note No. 454 to the Huryojonokyoku concerning application for permission to Mr. H.C. Angst to visit the recently established POW Hospital in Kobe.

The Japan Delegation of the I.R.C.C. takes this opportunity to thank the Japan Red Cross Society for any steps which it may see fit to take in supporting the petition concerned with the competent authorities.

Tokyo, July 29, 1944

Encl. as above

長官
濱田

190 No. 1

譯文



瑞西國壽府赤十字國際委員會駐日代表

事務所 橫濱市中區山下町二五四番地
電話本局(代表番號) ②一四三七番
ドクトル、エフ、バラグイ
私宅電話本局 ②〇八七八番
マツクス、ベスタ
エツチ、シー、アンタ
代表補助員

參照カ四五四號

一 神戸修磨病院視察許可申請之件

謹啟陳者「H.C.アムスト」代表事最近視察仕吏大坂修磨

收容所鳴海町カ十一分所ニ因シ貴局宛弊書參照カ四一九

號ヲ以テ市道附申上置矣壽府委員會宛弊電第丁

一〇四號單申參照被下度市願申上候

右ニ因シ壽府委員會ハ日本駐在代表ヲシテ 神戸ニ新設

セラレタル修磨病院ノ視察方ヲ貴局ニ於テ市許可被成下矣

ハハ感心謝ノ至リニ奉存候旨申越矣

右事情ニ付本代表部ハ陸軍大臣閣下宛歎願書ヲ茲許

同封市道附申上置向何卒市付達被成下度尚該歎願

ニ付シ市復即給ハラムコトヲ 切ニ懇願仕矣

修磨情報局殿

赤十字國際委員會駐日代表部

昭和一九年七月廿七日

19.8.2. 印
第 17 號

譯文

参照カ四五四號

一 神戸僑務病院視察許可申請之件

謹啟陳者「H.C.アソクスト」代表事最近視察仕美大改僑務
收答所鳴海町カ十一分所ニ同シ貴局宛死弊書参照カ四一九
號ヲ以テ市道附申上置矣壽府委員會宛死弊電第丁

一〇四號真由參照被下度市願申上候

右ニ同シ壽府委員會ハ日本駐在代表ヲシテ神戸ニ新設
セラレタル僑務病院ノ視察方ヲ貴局ニ於テ市許可被成下矣
ハハ感謝ノ至リニ奉存候旨申越矣

右事情ニ付本代表部ハ陸軍大臣閣下宛歎願書ヲ茲許
同封市道附申上置向何卒市付事被成下度尚該歎願
ニ對シ市援即給ハラヒコトヲ切ニ懇願仕矣

僑務情報局殿
一九二七 廿七

東京國際委員會駐日代表部
敬具

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE

GENEVA, SWITZERLAND



DELEGATION FOR JAPAN

191
HCA:SN

G.T.1285

TOKYO, July 27, 1944


Monsieur le Ministre,

I have the honor to solicit Your Excellency's kind permission to visit the recently established War Prisoners' Hospital in Kobe.

I venture to hope that Your Excellency will consent to give my present petition a favorable reception and have the honor to be,

Monsieur le Ministre,

Yours respectfully,



H.C. Angst
Delegate

His Excellency
Marshal Hajime Sugiyama
War Minister
War Ministry
T O K Y O

INTERNATIONAL RED CROSS COMMITTEE
GENEVA, SWITZERLAND



DELEGATION FOR JAPAN

HCA:SN

G.T.1285

Ref.No.454

NOTE TO HURYOJOHOKYOKU

RE PERMISSION TO VISIT POW HOSPITAL IN KOBE:

The Japan Delegation of the I.R.C.C. presents its compliments to the Huryojohokyoku and has the honor to state that under reference to this Delegation's telegram No.T104, copy of which was handed to the Huryojohokyoku in accordance with this Delegation's Note No.419, concerning Mr. H. C. Angst's recent visit to Osaka POW Camp No.11 at Narumicho, the I.R.C.C. in Geneva should be deeply grateful if the Huryojohokyoku could see its way to authorize the Japan Delegation to visit the recently established POW Hospital in Kobe.

In the circumstances this Delegation begs to append a petition addressed to His Excellency the War Minister and should be obliged to the Huryojohokyoku for transmission and support of this petition.

TOKYO, July 27, 1944

Encl. letter as mentioned above





192

居普通第五〇五號

昭和十九年八月三日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公

俘虜情報局長官 殿

在京瑞典國公使館員ニ對シ東京俘虜收容所訪問許可方ノ件

今般在京瑞典國公使館ヨリ和蘭人俘虜ノ收容セラレ居ル東京俘虜收容所ノ訪問許可方ニ關シ別添口上書譯文ノ通申越シタルニ付右茲ニ送付ス先方ヘノ回答振ニ關シ何分ノ儀御回示相成度

別紙添附



外務省

一九四四年七月二十四日附在京瑞典國公使館口上書譯文
和蘭國利益代表タル瑞典國公使館ハ帝國外務省ニ對シ同公使館外交
官補「イー、ビー、ガベル」カ八月中旬東京俘虜收容所ヲ訪問出來
得ル様關係當局ニ斡旋方要請スルノ光榮ヲ有ス
公使館代表ハ横濱（二回）及川崎分所ヲ訪問スル機會ヲ與ヘラレタ
ルカ訪問當時夫々十三名及一名ノ和蘭人俘虜アリタリ
俘虜情報局ヨリノ情報ニ依レハ東京收容所ニ於ケル和蘭人俘虜數ハ
八百十四名以上ナル趣ニ付今回ハ「ガベル」ヲシテ横濱支所ヲ除キ
和蘭人俘虜ノ收容セラレ居ル凡テノ分所訪問許可アル様要請ス。



194



俘普第二三一號

昭和十九年八月八日

日本赤十字社俘虜救恤委員部長 公爵 島津忠

俘虜情報局長官 濱田 平 殿

赤十字國際委員會駐日代表ノ視察旅行ニ關シ便宜供與方依頼ノ件

拜啓 赤十字國際委員會駐日代表ハインリツヒ・アングスト氏別紙
日程ニ依リ兵庫縣下所在抑留所並俘虜病院視察ノ爲旅行致スヘキニ
付イテハ右視察先ニ御通報ノ上便宜供與方可然御配慮ニ預度御依頼
申進候也

敬 具

追テ本社ヨリハ渥美外事課長同道致ス管ニ付御含相成度



日本赤十字社



赤十字國際委員會駐日代表ノ視察日程

第一日（八月十六日）一、〇〇 東京 發

二、一八 神戸 着

第二日（八月十七日）前 縣警察部訪問

後 抑留所視察

第三日（八月十八日）前 伊藤病院視察

第四日（八月十九日）神戸 滞在

第五日（八月二十日）神戸 發

一、九五七 東京 着

196

居普通第五〇四號

昭和十九年八月三日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公

俘虜情報局長官 殿

在京瑞西國公使館ニ對シ函館俘虜收容所
訪問許可方ノ件

本件ニ關シ七月四日附外務次官發陸軍次官宛居普通第四四五號ヲ
以テ在京瑞西國公使館ヨリ英國政府及米國政府利益代表者代理ト
シテ同公使館二等書記官「ベルナト」ニ對シ函館俘虜收容所訪
問許可方申越ノ次第ヲ傳達シ置キタルニ付御詮議中ノコトト被存
ルル處同公使館ヨリ本件許可ニ關シ斡旋方再應申越シ來リタルニ



外務省

197

付御差支ナキ限り特別ノ御配慮相成度此段申進ス

外
務
省

(日本標準規格B5)

控

俘外第三三號

在廣東瑞西國領事ニ對シ同地印度人俘虜訪問許可ノ件

昭和十九年九月十四日

俘虜情報局長官

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

九月七日附居普通第六〇五號ニ依ル首題ノ件目下廣東ニアル印度人ハ既ニ宣誓解放セラレタルモノニシテ俘虜ニハアラザルニ付承知相成度

俘虜情報局



199

保存期限

決裁指定

決行指定

連帶
局課名

決行後
回覽局課名

俘虜情報局

件名	受輸者	發輸年月日	案起	官長	發輸記號
			年月日		
在衣東瑞西國領事館 對同地印度人俘虜計 向許可件	鈴木公使		昭和十九年九月十日	田	厚み才三十三号
			日		部
		決行後回覽	連帶	高級事務官	高級事務官
		長	局		
					庶務係事務官
		長	課		
					發輸取扱者
		員	課		
					主務取扱者

九月七日附居普通平文の五号ニ依ル首題ノ件
仰至人ハ概シテ宣明ノ解故セシタルニシテ
其下係屬無事ニ付承知相成度

目下
申

新編紀略

新編紀略

控



44

200

俘外第三四號

在廣東瑞西國領事ノ同地印度人訪問ニ關スル件

昭和十九年九月十四日

陸軍省俘虜管理部長

支那派遣軍總參謀長
波集團參謀長
香港占領地總督部參謀長

殿

今般在京瑞西國公使館ヨリ英國政府ハ在廣東瑞西國領事「ホツクマ
イスター」ニ對シ同地ニ在ル印度人俘虜ノ訪問許可ヲ希望シ居ル旨
通報シ來レルモ目下同地軍ニテ利用中ノ印度人ハ既ニ俘虜ヨリ宣
誓解放セラレタルモノナルヲ以テ「廣東ニハ目下俘虜存在セザル
旨」回答シ置ケリ從テ瑞西國領事ガ敵國ノ利益代表等トシテ本印
度人訪問等ノ公式活動ハナシ得ザル儀ナルニツキ爲參考通牒ス

通牒先 支那派遣軍、香港占領地總督部（參考波集團）



昭和十九年九月十日

陸軍

連帶

局長

課長

課員

俘虜管理部長

高級部員

主務部員

取扱者

發翰者

陸軍省俘虜管理部長

受翰者

支那派遣軍總參謀長
波島團參謀長
香港上陸地強習部參謀長

俘虜第三十四號

件名 在在東瑞西國領事、同地印度人訪問之關係件

本文 在在東瑞西國公使館

英國政府、在在東瑞西國領事、
「ホッフマイスター」

対同地、在在印度人係屬、訪問許可ヲ希望ス

片々旨通報に來しにモ目下同地軍ニテ利用中ノ印度人

ヲ東ノ目下偽虜存在セザル旨「四ヶ所」に遣ケル

ハ既ニ偽虜ヨリ宣禁解放セラルルモノヤ以テ西

軍ヲ印中印度人

國領事ガ敵國ノ利益代表トシテ

訪向ノ既未詳

等

等

等ノ活動ハ

早カリキモ許所スル要キ事見トシ甘為矣今考

ナコトザル儀ニツキ

通降ス

香港ノ他地監督部

通降先友即派遣軍 (参考波集軍)

202

居普通第六〇五號

昭和十九年九月七日

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官 殿

在廣東瑞西國領事ニ對シ同地印度人俘虜訪問許可方ノ件

今般在京瑞西國公使館ヨリ別添口上書譯文ノ通英國政府ニ於テハ在廣東瑞西國領事「ホッフマイスター」ニ對シ同地ニ在ル印度人俘虜ノ訪問許可方要望シ居ル趣ヲ以テ右ニ對スル帝國官憲ノ決定承知シ度キ旨申越シタルニ付委細右ニテ御了承ノ上何分ノ儀貴見御回示相成度

瑞西國領事ニ對シ同地ニ在ル印度人俘虜ノ訪問許可方要望シ居ル趣ヲ以テ右ニ對スル帝國官憲ノ決定承知シ度キ旨申越シタルニ付委細右ニテ御了承ノ上何分ノ儀貴見御回示相成度

別紙添附



一九四四年八月二十九日附在京瑞西國公使館口上書譯文

瑞西國公使館ハ帝國外務省ニ對シ英國政府ハ在廣東瑞西國領事「ホ
ツフマイスター」ニ對シ同市ニ在ル印度人俘虜ノ訪問許可方要望
シ居ル旨通知スルノ光榮ヲ有ス

同公使館ハ外務省ニ對シ本件ニ關スル帝國官憲ノ決定ヲ承知シ度
キ旨要請ス

公使館ハ外務省ニ對シ茲ニ重ネテ敬意ヲ表ス

外務省



控

45

204

俘外第三五號

在京瑞西國公使館ニ對スル俘虜收容所訪問許可
ニ關スル件

昭和十九年九月十四日

陸軍省俘虜管理部長

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使殿

九月七日附居普通第六〇八號ニ依ル首題ノ件俘虜收容所ノ分所派遣所ノ位置ハ一般ニ發表セザル方針ナルニ付敵國利益代表ローマ法王廳使節代表等ニ對スル俘虜收容所ノ訪問ハ現在實施シアル通り當方ニ於テ計畫シ逐次許可致スベキニ付承知相成度

陸軍

205

決行指定

決裁指定

保存期限

件名	受輸者	發輸年月日	案起年月日	起部名	官長	發輸記號番號
		昭和十九年九月十日	昭和十九年九月十日	俾虜管理部		修外第315号
發輸者	發輸者	決行後	帶	連	高級	高級事務官
		局長		局		庶務係事務官
發輸者	發輸者	決行後	帶	課	主務	發輸取扱者
		局長		課		主務取扱者
發輸者		員				

連帶局課名

決行後回覽局課名

俾虜情報局

在東京瑞西園公使館ニ付
之俾虜部收書所防内
許可之件

館長公使

管理部長



九月七日附在普通力六日八号之依ん首題ノ件、信房

收束所ノ外所派遺所、信通ニ一般ニ代表セサレ方針

十九日付敵國利益代表、ワレノ法王ノ廳、伊節代表等

現在実施レハ通リ

ニ対シテ信房、伊節、伊方、於テ計畫ニ逐次

許可致スルキニ付、承知相成度

ハ末タ嘗テ帝國政府ヨリ俘虜收容所々在名表ノ通報ニ接シ居ラス
 從ツテ何處ニ俘虜收容所カ設置セラレ居ルヤ不明ナルヲ以テ之カ
 一々ノ訪問許可ノ申請ヲ爲スコト不可能ナリ曩ニ瑞西公使館ハ本
 國政府ノ訓令ニ基キ帝國權内ノ全部ノ收容所訪問方ヲ申請シ置キ
 タリ就テハ日本政府ニ於テ瑞西公使館ニ對シ收容所ノ訪問ヲ遂次
 許可セラルルカ然ラザレハ收容所名表ノ通報ヲ得度キ旨申出來レ
 リ

本件ニ關シテハ日本内地ニ於ケル俘虜收容所ノ關スル限り俘虜收
 容所（分所及派遣所ヲ除ク）ノ名表ヲ瑞西公使館ニ通報シ置キ時
 々其ノ申請ヲ爲サシメ而シテ其ノ訪問ノ許可ニ當リテハ適宜其ノ
 分所或ハ派遣所ヲ含メ選擇ノ上之ヲ許可セラルルニ於テハ便宜ナ
 ルヤニ認メラルル處右ニ對スル何分ノ貴見御回示相成度

長官	次官	決裁指定	決行指定	菅井
保存期				

46 208

軍事極秘

大臣 委	局長 主務	次官	政務 次官	參與官	書記官	審案 筆記者
	濱田	柴山				
	局長 主務	高級 副官				
	小田島	菅井				
	主務課員	主務副官				
	保田	中吉				
		田中				

房官臣大	課局務主	件名	番受	陸軍省	陸軍省	陸軍省
了結	領受	出提	領受	陸軍省	陸軍省	陸軍省
昭和	昭和	昭和	昭和	陸軍省	陸軍省	陸軍省
年	年	十九年	十九年	陸軍省	陸軍省	陸軍省
月	九月	九月	九月	陸軍省	陸軍省	陸軍省
日	十九日	十九日	十九日	陸軍省	陸軍省	陸軍省
(裁決)行決	回覽	後	後	陸軍省	陸軍省	陸軍省
長局	長局	軍務	佐藤	陸軍省	陸軍省	陸軍省
長課	長課	軍務	赤松	陸軍省	陸軍省	陸軍省
		軍事	飯尾	陸軍省	陸軍省	陸軍省
		杉田	細田	陸軍省	陸軍省	陸軍省

政務大官 回付 決裁前 連帶 後 課名

決行(決裁)後 回覽課名

陸軍

占領地ニ於ケル俘虜收容所及軍抑留所ノ訪問ニ關スル件

陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省 陸軍省

陸亞密電

電報
連勝案

次官ヨリ南方軍總參謀長へ

占領地ニ於ケル俘虜收容所及軍抑留所ヲ赤十字國際委員會代表敵

國ノ利益代表等ニ訪問セシムルコトハ從來作戰上ノ顧慮ヨリ之ヲ

許可セラレアラザリシ所俘虜及抑留者ニ對スル我が公正ナル取扱

ヲ中立國及敵國ニ知ラシムルコトハ敵ノ惡質宣傳ヲ破碎シ且スル必稟

ト敵國ニ於ケル帝國ノ利益保護ヲモ考慮シ最小限ノ範圍ニ於

テ兩所ノ訪問ヲ許可キザルナルニ付之ヲシテ最モ效果アラ

シムル様配慮アリ度ナ現地代理者

右ニ基キ差當リ赤十字國際委員會駐日代表（現地）代表ノ代

理者ヲ臨時ニ認トニ對シテノミ占領地ニ於ケル俘虜收容所及軍

抑留所ノ訪問許可ヲ成ルベク速ナル機會ニ詮議セラレベキニ付許

可差支ナキ時機（並）何レノ俘虜收容所軍抑留所ヲ訪問セシムベキ

ヤ等ニ關シ貴見承リ度防諜其他關係ヲモ考慮シ

陸軍

尙敵國ノ利益代表ニ對シテハ當分許可セザル從來ノ方針ニ變化無し

本

上野

893

陸亞密電一七五一

昭和拾九年九月拾九日

市村

右依命通牒本

居普通合第六八〇號

昭和十九年八月二十八日

外務省在敵居留民關係事務室

鈴木 公

俘虜情報局長官 殿

占領地及内地俘虜收容所訪問ニ關スル件

在京瑞西國公使館ヨリ占領地ニ於ケル俘虜收容所訪問ニ關シ別添
 甲號ノ通申越シタルニ付別添乙號ノ通回答シ置キタリ又内地收容
 所訪問ニ關シ別添丙號ノ通申越シタルニ對シ別添丁號ノ通回答シ
 置キタルニ付右御參考迄ニ申進ス

本信送付先 俘虜情報局長官、陸軍省軍務局長

別紙添附



外務省

甲号

一九四四年七月一日附在京瑞西國公使來翰譯文

以嘗翊啓上致候陳者本使ヨリ帝國外務省係官ニ對シ累次陳述スルノ
 機會ヲ有シタル通米國政府ハ閣下ガ主務官憲ト共ニ本使ニ對シ占領
 地ニ於ケル俘虜收容所ヲ訪問セシムル爲ノ許可ヲ與ヘ得ルヤニ就キ
 御檢討中ナル趣大ナル満足ヲ以テ了承致候同政府ハ最高度ニ懇念ヲ
 有スル同問題ノ満足ナル解決ノ重大性ヲ繰返シ強調スルト共ニ御檢
 討ノ結果ヲ甚大ナル關心ヲ以テ期待スル旨申込候

本年五月三日、日本權内ニ在ル米國人俘虜待遇ニ關スル米國政府ノ申
 人ニ對スル日本國政府ノ回答ニ就キ閣下ト會見シタル後本使ハ公平
 ヲ持セントシテ米國政府ノ爲本國政府ニ對シ日本帝國當局ガ如何ナ
 ル氣持ヲ以テ米國ノ抗議ニ接シタルカラ通告致置候
 右ニ關シ米國政府ハ閣下ニ對シ左記ノ通告方依頼越候即チ「重光
 大臣ノ非難スル公表ハ確實ナル筋ヨリ米國通信社ニ入りタル日本占
 領地俘虜收容所ニ於ケル米國人苦難ノ報告書ナリ」同政府ハ更ニ「

右ノ如キ報告發表ヲ終止セシムル爲ニハ日本ハ右ノ如キ報告ノ據テ
來ル所ノ事情ヲ除去シ瑞西人代表者ヲシテ新ク米國政府ニ通報セシ
ムルニ若カズト附言致候

又米國政府ハ「同國人ニ對シ敵管理下ノ同國人ノ狀況ヲ告知スル」
ノ義務ヲ有スル旨ヲ陳述シ右ニ關シ次ノ意見ヲ表明致候即チ「日本
國政府ガ利益保護國代表者ノ日本占領地ニ在ル收容所訪問ヲ頑強ニ
拒否スルコトハ之等ノ地域ニ於ケル事情ハ依然不良ナル爲日本ハ中
立國人ニ依リ目撃セラルルヲ恥ヅル爲ナリトノ當然ノ決論ニ導クモ
ノナリ、日本國政府ハ不利ナル報告ノ原因ヲ除去シ右ノ如キ報告ノ
將來ニ於ケル發表ヲ豫防スル爲ノ最モ効果的手段ヲ有ス、即チ同政
府カ非戦闘員抑留者及俘虜ノ待遇ニ人道的考慮ヲ加ヘントノ度々ノ
意思宣言ヲ實現シ重光大臣ノ約束シタル改善ヲ加フルニアリ、日本
國政府ニ於テ之等米國人ニ約束通り人道的待遇ヲ與ヘ瑞西代表者ヲ
シテ米國人ノ勾直サルル悉ユル地域ヲ訪問セシメ彼等ノ待遇カ日本

國政府ノ約束ト一致セルコトヲ確認シ確證スルニ於テハ米國政府ハ
 日本ニ勾置セララルル米國人ノ親族及友人ニ對シ其ノ狀況及待遇ニ關
 シ安堵セシメ得ベシ、米國政府ハ日本國政府ニ於テ最早遲滯ナク瑞
 四國政府代表者ヲシテ悉ユル勾置米國人ヲ悉ユル勾置地域ニ於テモ
 訪問セシムルコトヲ納得スベシトノ期待ヲ有ス、斯ノ如キ訪問カ
 敵利益代表問題ニ關シ日本國ノ採レル法的見解ヲ毀損スルコトナク
 日本國政府ニ依リ承認セラレ得ザル理由ナキモノト認メラル
 閣下ニ於カレテ御氣付ノ如ク米國政府ハ收容所訪問ニ關スル日本側
 ノ約束ヲ仄シ居ル處右ハ正式ナル約束タリ得ベカラズ閣下ニ於カレ
 テ單ニ同問題檢討ヲ約束セラレタルニ過キズ主務官廳トノ檢討ノ結
 果ニ關シテハ何等ノ保障ヲ與ヘ居ラレズ候本使ハ右ニ關シ先ツ悉ユ
 ル誤解ヲ避カル爲此ノ點ヲ明確ニ致置ク必要アリト思考致候俘虜收
 容所訪問ト占領地ニ於ケル米國利益一般代表ニ關シテ米國政府ノ屬
 レタル最後ノ點ニ關シテハ本使ハ本日貴省係官ニ對シ覺書ヲ送付致

サセ直候

右米國政府ノ申人カ帝國政府ニ與ヘ得ベキ反省ト決定ニ大關心ヲ有
シ右ニ關スル閣下ヨリノ御通牒ヲ期待シ右ニ對シ豫メ表謝勞本使ハ
茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

外
務
省

乙字

居普通第二二二號

以書翰啓上致候。陳者七月一日附貴翰（CC. 1.1. PAC）ヲ以テ帝國權内ニ在ル米國人ノ待遇及帝國ノ占領地域ニ於ケル俘虜收容所訪問方ニ關シ御申越相成敬承致候。

閣下カ二月五日附書翰ヲ以テ御轉達越サレタル、帝國權内ニ在ル米國民ノ待遇ニ關スル米國政府ノ抗議ニ對スル帝國政府ノ見解及右待遇ニ關スル帝國政府ノ一般方針ハ、四月二十八日附閣下宛書翰中ニ詳述シタル通ニ有之、又米國政府ガ右抗議ト同時ニ行ヒタル帝國政府誹謗宣傳ニ對スル帝國政府ノ見解ハ既ニ閣下ニ説明シタル通ニシテ、帝國政府ハ右ニ關シ何等其ノ態度ヲ變更スル能ハザルモノニ有之候。

日本軍ノ占領地域ニ於ケル俘虜收容所ノ第三者ニ依ル訪問許可ガ差

當リ困難ナル理由ハ前述四月二十八日附書翰中ニ述置候通ナルモ、右訪問許可方ニ付検討ヲ加フベキ旨閣下ニ申述べタルハ一ニ帝國政府ノ前述既定方針ニ則リ、困難ヲ脱シテ敵國人待遇問題ニ對スル帝國政府ノ公正ナル態度ヲ示サムトスルモノニ外ナラズ。右検討ノ結果ニ付テハ追テ閣下ニ通報致スベク候。

尙此ノ機會ニ重ネテ米國政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ度キハ、敵國人ノ待遇ニ付テハ一千九百二十九年條約ノ豫見セザル事應ニ對シテモ同條約ノ精神ニ則リ之ヲ處理スルコト最モ重要ナリト思考スルコトニシテ、特ニ前述四月二十八日附書翰末段ニ於テ此ノ點ニ關シ表明シタル帝國政府ノ要望ニ對シ、米國政府ガ速ニ人道的見地ヨリ充分ノ検討ヲ加ヘ其ノ結果ヲ回示セムコトヲ期待スルモノニテ、閣下ニ對シ之ヲ米國政府ニ可然傳達サレムコトヲ依頼申進候。

此段申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具

217

昭和十九年八月十二日

外務大臣 重光 葵

在本邦
瑞西國特命全權公使

カミリーユ・ゴルジエ 閣下

外務省

丙号

一九四四年七月二十一日附在京瑞西國公使館覺書譯文

帝國官憲ハ最近瑞西國公使ニ對シ日本ニ於ケル凡ユル俘虜收容所ノ訪問ヲ許可スベキ旨通知セリ。

瑞西國公使館ハ最近川崎收容所ヲ訪問スルコトヲ得タルガ、其ノ他ノ收容所ヲ何時訪問スルコトヲ得ルヤ承知シ度シ。

英國政府及米國政府ハ瑞西國公使ニ對シ右訪問ガ實施セラレムコトヲ熱望シ居レリ。公使館モ亦帝國外務省ニ對シ出來得レハ陸軍省ノ意旨ヲ通達セラレムコトヲ懇請ス。

丁字

居普通第二二二號

口 上 書

帝國外務省ハ在京端西公使館ニ對シ、七月二十一日附同公使館覺書
 (CC. 1.1. FAG) ヲ以テ、日本ニ於ケル俘虜收容所訪問許可方ニ關シ
 申越ノ次第ヲ了承シ、之ニ對シ帝國政府ノ意向ヲ左ノ通回答スルノ
 光榮ヲ有ス。

在京端西公使館ハ、右覺書中ニ於テ、「最近帝國官憲ハ端西國公使
 ニ對シ日本ニ於ケル凡テノ俘虜收容所ノ訪問ヲ許可スベシト通告セ
 リ」ト述べ居ル處、右ガ五月三日同公使トノ會談ニ於ケル帝國外務
 大臣ノ當該陳述ヲ引用セルモノトセバ、其ノ際同大臣ハ「日本内地
 及支那ニ付テハ其ノ收容所ノ訪問ニ付出來ル丈ケノコトヲスベシ」
 ト陳ベタルコトヲ指摘セムトス。現ニ右會見後同公使ノ代理者ハ名
 古屋、新潟、東京等ノ俘虜收容所ヲ逐次訪問シ同公使館ハ之ニ付滿

外 務 省

(日本標準規格 B5)

足ノ意ヲ帝國關係官憲ニ表明シタリ。帝國關係官憲ガ右以外ノ收容
所ニ付テモ瑞西公使館ヨリ其都度申請ヲ俟テ遂次許可ヲ與フル方對
ナルハ既に説明シタル通ナリ。

昭和十九年八月十五日

外
務
省

長官	高級	主務	関	覧
				22/

控

4955

俘外第三八號

上海俘虜收容所等訪問ニ關スル瑞西政府申出ノ件通牒

昭和十九年十一月八日

俘虜情報局長官

支那派遣軍總參謀長殿

上海俘虜收容所長殿

上海軍抑留所長殿

首題ノ件ニ關シ別紙寫ノ通申越アリ本件ニ關シテハ既ニ考慮セラレ居ルコト下存スレモ軍事上支障ナキ件ハ成ル可ク便宜供與スル如ク取計ハレ度爲

通牒先 支那派遣軍（参考上海俘虜收容所、上海軍抑留所）

陸軍

寫

居普通第七一六號

昭和十九年十月二十五日

別紙添附

陸軍

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木公使

俘虜情報局長官殿

上海俘虜收容所等訪問ニ關スル瑞西政府申出ノ件

上海駐劄瑞西國總領事ノ同地俘虜收容所及軍抑留所訪問許可ニ關シテハ九月二十日附外務次官宛陸軍次官發信陸亞普第一二一〇號ヲ以テ御通報相成タル處今般在京瑞西國公使館ヨリ別紙口上書ノ通申越タルニ付右來信譯文茲ニ移牒ス委曲右ニテ御諒承ノ上可然御取計相成度

（一九四四年十月九日附在京瑞西國公使館來翰上海
 俘虜收容所訪問ニ關スル件）假譯文

在上海瑞西總領事館ノ江灣俘虜收容所及海防路抑留所訪問ニ關スル
 一月十一日及客年八月十日附覺書ニ關シ在京瑞西國公使館ハ帝國外
 務省ニ對シ瑞西國政府ハ最近前記總領事館カ是等二ヶ所ノ收容所等
 ヲ訪問スルコトヲ許可セラレタル旨ノ通報ヲ接受シタル趣通報スル
 ノ光榮ヲ有ス

瑞西國公使館ハ本國政府ノ訓令ニ基キ前記一月十一日附ノ覺書ニ關
 シ帝國外務省ノ好意的御注意ヲ喚起致度右覺書ニ依レバ客年十一月
 ニ於ケル前記收容所ノ訪問ハ余リニ短時間ニシテ總領事館ハ收容所
 等ノ施設及俘虜等ノ取扱ニ關シ必要ナル報告ノ作成ヲ爲能ハザリシ
 ノミナラス俘虜トノ會談若シクハ彼等ノ代表者トノ會見ヲ爲スコト
 ヲ得ズ最後ニ總領事館ハ其等收容所ニ關シ質問シタル幾多ノ質疑ニ
 對シ關係當局ノ回答ヲ得ルコト能ハザリキ

同様に赤十字國際委員會代表ノ是等收容所等ノ最近ノ訪問モ同等ノ速度ニ依リ實施セラレタリ

瑞西國政府ハ次期ノ訪問ニ際シテハ同國總領事カ俘虜ト面會シ其ノ代表者ト會談シ得ルヤウ許可ヲ與ヘラレンコトヲ冀望ス特ニ訪問ノ際俘虜カ收容所外ニ於テ勞働ニ從事シ居ラサルコトヲ希望ス

公使館ハ日本内地ノ俘虜收容所訪問ニ際シ許容セラレ居ルカ如キ便宜ヲ日本官憲カ瑞西總領事館ニ給與セラレンコトヲ希望シ而シテ帝國外務省カ陸軍省ニ對シ右ノ趣旨斡旋セラレムコトヲ懇請シ併テ御回答ヲ與ヘラルルニ於テハ幸甚ナリ

公使館ハ帝國外務省ニ對シ豫メ本件ニ關スル御回答ヲ感謝シ旁重テ敬意ヲ表ス

首題ノ件ニ関シ別紙寫ノ通申越アリ
本件ニ関シニ付

既ニ考慮セラルル所ニ付存スルモ

爾後成ル可ク便宜供與方取計ハレ度為念

軍事上支障無キ限

件ハ

通原乞

支那派遣
南洋軍

上海修養所
上海事務所

務	主	級	高	長官

226

居普通第七一六號

昭和十九年十月二十五日

外務省在敵國居留民關係事務室

錦木公使

俘虜情報局長官 殿

殿

上海俘虜收容所等訪問ニ關スル瑞西政府申出ノ件

現地軍及收容所
通條ヲ通シ
成ルベク俣立リ
其ノ如ク通條

上海駐劄瑞西國總領事ノ同地俘虜收容所及軍抑留所訪問許可ニ關シテハ九月二十日附外務次官宛陸軍次官發信陸亞普第一二一〇號通申越タルニ在リ茲ニ移牒ス委曲右ニテ御諒承ノ上可然御取計相成度

紙添附



外務省

（一九四四年十月九日附在京瑞西國公使館
俘虜收容所訪問ニ關スル件）假譯文
翰上海

在上海瑞西領事館ノ江灣俘虜收容所及海防路抑留所ヲ訪問ニ關スル
一月十一日及客年八月十日附覺書ニ關シ在京瑞西領事館ハ帝國外
務省ニ對シ瑞西國政府ハ最近前記總領事館ガ是等ニケ所ノ收容所等
ヲ訪問スルコトヲ許可セラレタル旨ノ通報ヲ接受シタル趣通報スル
ノ光榮ヲ有ス

瑞西國公使館ハ本國政府ノ訓令ニ基キ前記一月十一日附ノ覺書ニ關
シ帝國外務省ノ好意的御注意ヲ喚起致度右覺書ニ依レバ客年十一月
ニ於ケル前記收容所ノ訪問ハ余リニ短時間ニシテ總領事館ハ收容所
等ノ施設及俘虜等ノ取扱ニ關シ必要ナル報告ノ作製ヲ爲能ハザリシ
ノミナラズ俘虜トノ會談若シクハ彼等ノ代表者トノ會見ヲ爲スコト
ヲ得ズ最後ニ自事館ハ其等ノ所ニ關シ質問シタル幾多ノ質疑
對シ關係當局ノ回答ヲイコト能ハザリキ

同様に赤十字國際委員會代表ノ是等收容所等ノ近ノ訪問モ同等ノ速度ニ依リ實施セラレタリ

瑞西國政府ハ方期ニ於テハ同國總領事カ俘虜ニ面會シ其ノ代表者ト會談シ得ルヤウ許可ヲ與ヘラレンコトヲ冀望シ年ニ訪問ノ際俘虜カ收容所外ニ於テ勞働ニ從事シ居ラザルコトヲ希望ス

公使館ハ日本内地ノ俘虜收容所訪問ニ際シ許容セラレ居ルガ如キ便宜ヲ日本官憲カ瑞西總領事館ニ給與セラレンコトヲ希望シ而シテ帝國外務省カ陸軍省ニ對シ右ノ趣旨斡旋セラレムコトヲ懇請シ併テ御回答ヲ與ヘラルルニ於テハ幸甚ナリ

公使館ハ帝國外務省ニ對シ豫メ本件ニ關スル御回答ヲ感謝シ旁重テ敬意ヲ表ス

高	級	三	務	開
			水谷	
				長官

控

61

俘外第四八號

香港基督青年會代表關之瑞西國公使ヨリ申出ノ件

昭和十九年十二月十七日

俘虜情報局長官代理

外務省在敵國居留民關係事務室

鈴木 公使 殿

十二月四日附居普通合第九一三號ニ依ル首題ノ件ニ関シ
 テハ貴案ニ同意見ナルニ付可然取計相成度

俘虜情報局

228

保存期限
決裁指定
決行指定

軍事秘密

決行後
回覽局課名

俘虜情報局

件名	受翰者	發翰年月日	案起		官長	發翰記號番號	保存期限
			年月日	起部名			
香港基督青年會代表ニ関シ瑞西國公使ヨリ申出ノ件	外務省在敵國居留民關係事務室 鈴木公使	昭和十九年十二月十七日	昭和十九年十二月九日	俘虜情報局	高級事務官	俘外第四八號	決行後 回覽局課名
			帶	連局			
	發翰者	局長官代理	課	課	庶務係事務官	發翰取扱者	主務取扱者

Handwritten notes and stamps on the document, including a large diagonal stamp that reads "軍務課" (Military Affairs Section) and other illegible characters.

229

居普通合第九一三號

昭和十九年十二月四日

外務省在歐國居留民關係事務室

鈴木公使

外務省 同意見あり

俘虜情報局長官 殿

香港基督教青年會代表ニ關シ瑞西國公使ヨリ
申出ノ件

今般在京瑞西國公使ヨリ別紙假譯ノ通譯ニ香港基督教青年會代表
トシテ推薦セラレタル瑞西人「ケンゲルバツハ」カ陸軍省ヨリ同
青年會代表タルコトヲ振否セラレタル爲更ニ瑞西人「レーラー」
カ推薦セラレタルモ同様拒否セラレタルノミナラス日本官憲ハ他
ノ中立國人ヲ起用セムトシ居レルカ如斯ハ日瑞兩國間ニ在ル友好
關係ト兩立セサル旨申越アリタリ右ハ何等カ誤解ニ基クモノナル

別紙添附



外務省

ヘク宮方ノ記憶ニ依レハ香港ニ於テ既承認ノ赤十字國際委員會代表ノ外ニ同青年會代表承認方希望アリタルニ對シ占領地ニテハ一般的ニ救恤團體ノ代表者ヲ未タ承認セサル方針ニモ鑑ミ例外的ニ認メタル右國際委員會代表以外ノ救恤團體代表ヲ認ムルコトハ紛滑ヲ來ス虞アリトノ趣旨ニテ同意ヲ與ヘサリシモノナリシカト解スルニ付本問題ヲ廻リ瑞西公使ヨリ申出ノ如キ紛糾ヲ生スルハ面白カラサルニ付此ノ際差當リ青年會代表ハ承認セサルコトトシタル旨同答スルコト一番ナリト存セララルル處何分ノ儀御同示相煩度シ

本信送付先

陸軍省軍務局長、俘虜情報局長官

外務省

十一月十一日附瑞西國公使ヨリ鈴木公使宛半公信假譯

拜啓陳者基督教青年會日本委員會ハ在香港代表者トシテ同地ニ於テ
尊敬ヲ受ケ居ル瑞西國人「フリードリッヒ、ヨハン、ケンゲルバ
ハー」氏ヲ選定致候

同氏カ其ノ任務ニ就イテヨリ間モ無ク陸軍省ハ閣下ヲ通シ右代表者
ハ望マシキ人物ニ非ラサル旨ヲ通達致候

同人ハ重大ナル誤解ノ犧牲トナレルモノト反對ノ證據ヲ得ル迄ハ本
使ノ強ク信スル所ニシテ同人ニ對シ投セラレタル不信ヲ證明スル何
等明確ナル理由モ舉ケ居ラレス候

本使カ日本官憲ノ態度ヲ決定シタル眞實ノ理由ヲ追求スヘキニ非ス
トナシタルハ一旦裁決アリタル場合ハ其ノ決定ハ變更セラレサルコ
トヲ了知致シ居ルカ故ニ有之候

茲ニ於テ基督教青年會委員會ハ本使ニ對シ香港在留瑞西國人中ヨリ
他ノ代表一名選定方依頼感候依テ本使ハ右希望ニ應シ暫ク經チテヨ